

2017年度事業報告

1. 部落問題・人権問題に関する各種の調査研究

(1) 部落問題の歴史的研究（主任研究員 塚田孝・竹永三男）

地域における人権・民主主義をめぐる状況や運動の今日的展開をふまえながら、部落問題を前近代から現段階までの歴史展開の総過程の中で位置づけるとともに、各時代の全社会構造の中で具体的に把握する研究に取り組んだ。

前近代分野では、身分的周縁研究と「賤民」身分研究を、地域社会の構造とその展開との関連において、また身分（制）社会全体の構造の中でとらえること、近現代分野では、人権と民主主義の歴史的展開とその特質を明らかにすることを軸とした地域史の再構成をめざすことや、近現代日本の人権問題とそれに関連する社会運動を解明すること、などの方針をそれぞれ掲げて、以下のとおり研究を進めた。

1) 科学研究費助成事業（科研費）の交付を受けて遂行した研究

「行き倒れに関する国際的比較地域史研究—移動する弱者の社会的救済・行政的対応の分析」（研究代表者・藤本清二郎、基盤研究（B）2015～17年度）

3年目の最終年度を迎え、9回の研究例会を開催して合計13報告を得た。この中、2018年1月8日は、韓国から邊柱承氏（全州大学教授）を招き、公開講演会「朝鮮後期の流民研究」として開催した。また、研究期間終了にあたって2018年3月17日、大阪歴史科学協議会と日本史研究会の後援を得て研究成果報告会を開催し、研究組織に参加する全員（レジュメ発表含む）が各自の研究課題の成果を報告した。

2) 歴史研究会及び科研費の研究例会の開催（会場は部落問題研究者全国集会及び明記したもの以外は部落問題研究所／※は、科研費研究例会）

2017年

5月7日（※）

大杉由香：戦間期の乳児・児童をめぐる社会環境—1910年代後半から30年代にかけての大阪を中心に—

金津日出美：研究紹介・邊柱承「朝鮮後期流民研究」

6月11日

竹永三男：民権派ジャーナリスト・高橋基一の活動とその立憲主義論

藤本清二郎：地租改正期の未解放部落をめぐる入会権紛争

6月17日（※）福祉社会研究フォーラムとの共催（於 東京大学経済学研究科棟）

飯田直樹：大阪府方面委員制度の創設と警察社会事業

鈴木忠義：社会福祉政策における「居場所」概念の検討

8月25日

竹末勤：奈良県部落問題解決過程の1960年代—一部解放運動の成長と不団結の発生—

梅本哲世：高度成長期の政治と経済—岸内閣・池田内閣を中心に—

9月 3日（※）

ジョン・ポーター：東京養育院の性格と機能について

9月16日（※）

藤本清二郎：19世紀広島藩の旅人「行き倒れ」—その実態と対応策—

沢山美果子：子連れ行き倒れ人の記録からみえるもの

9月25日

梅本哲世：佐々木隆爾氏の戦後史研究について—一部落問題との関わりを中心に—

西尾泰広：1960年代・原発設置計画地域における対抗

10月1日

杉森哲也：（第55回部落問題研究者全国集会歴史I分科会準備報告）

吉元加奈美：（同上）

10月22日

飯田直樹：大阪における町共同体の解体過程について—高麗橋二丁目を事例として—

竹末勤：奈良県の部落問題解決過程

10月29日 第55回部落問題研究者全国集会・歴史I分科会

杉森哲也：近世京都・妙法院領の新地開発とその地域構造

吉元加奈美：近世大坂における堀江新地の社会構造分析

10月29日 第55回部落問題研究者全国集会・歴史II分科会

竹永三男：地方長官会議と東北六県

河西英通：東北史から全体史へ—格差の歴史、序列の歴史、差別の歴史—

11月25日（※）福祉社会研究フォーラムとの共催（於 東京大学経済学研究科棟）

竹永三男：近代日本における行旅病人・行旅死亡人

—その法制・実態・対応行政の歴史的研究—

12月16日（※）

塚田孝：道頓堀周辺の芝居地・垣外・墓所

2018年

1月8日（※）

邊柱承：近世後期の流民研究

1月14日

鬼嶋淳：高度成長期の地域医療・福祉をめぐる運動—入間医療生活協同組合の模索

2月10日（※）福祉社会研究フォーラムとの共催

藤本清二郎：近世日本の「行き倒れ」—旅人と非人・乞食、その境界—

大杉由香：1920・30年代の大阪市における貧困問題と子どものゆくえについて—
—大阪府公文書館史料から見えてきたこと—

3月3日（※）於 神戸大学文学研究科棟

石橋知之：文政十三年摂津国神戸村による行き倒れ人への対応

3月30日

竹末勤：部落問題解決をめぐる民主主義的共同の成立—1970年奈良県『橋のない川』上映運動と暴力的糾弾—

3) 学術論文等の発表

『部落問題研究』に、上記科研費研究の成果をはじめ、前近代・近現代の歴史研究の

成果を掲載した。

『部落問題研究』222輯

八木滋：近世大坂・西道頓堀南側の開発過程

『部落問題研究』223輯

藤本清二郎：畿内譜代藩「長吏」体制の展開と終焉

塚田孝：近世大坂の役木戸

竹永三男：民権派ジャーナリスト・高橋基一の活動とその立憲主義論の基礎的検討

『部落問題研究』224輯

邊柱承：朝鮮後期の流民研究

鬼嶋淳：戦後日本の地域医療・福祉をめぐる運動

渡邊久仁太：貝塚寺内町非人番について

(2) 現代部落問題論・人権論の研究

研究の重点として、①「特別法」にもとづいて実施された同和行政の検証、②人権問題意識調査の検討、③「部落差別解消推進法」をめぐる問題、④ヘイトスピーチ問題、⑤地域における人権諸課題、をあげた。

【現代部落問題論・人権論研究会】※会場は部落問題研究所

3月16日 奥山峰夫：人種差別撤廃条約批准問題・再論—ヘイトスピーチ問題とのかかわりで—

【部落問題研究者全国集会】※会場は同志社女子大学

10月29日 朴 仁淑：戦後韓国における高齢者の貧困と対策
荻原園子：生江孝之と部落問題
奥山峰夫：「結婚差別」をめぐる議論を考える

(3) 人権と教育に関する理論的・実証的研究

【教育研究会】※会場は部落問題研究所

教育研究会では、適宜例会を実施してきた。各会のテーマ及び報告者は次の通りである。

5月21日 大八木賢治：特別の教科「道徳」と『道徳教科書』はどうなったか

7月 9日 平井美津子：教育勅語と道徳教育

9月10日 倉本 頼一：道徳の教科化と道徳教育教科書

12月10日 碓井 敏正：教科化された道徳への向き合い方

2月25日 八木 英二：コンピテンシー再定義と新旧学習指導要領

【部落問題研究者全国集会】※会場は同志社女子大学

第55回部落問題研究者全国集会「教育」分科会では、テーマ「道徳の特別教科化と道徳教育」にもとづき、次の報告と討議を行った。

10月29日 平井美津子：教育勅語と道徳教育

倉本 頼一：道徳の教科化と道徳教育教科書

(4) 人権に関わる文芸の研究

【文芸研究会】※会場は部落問題研究所

3カ月に一度、例会（第205～207回）を開催してきた。各回の日時およびテーマは次に示すとおりである。

第205回（6月11日）

上原善広編『路地 被差別部落をめぐる文学』（皓星社）を読む

第206回（8月27日）

上原善広著『路地の子』（新潮社）を読む

第207回（1月21日）

『病（やまい）短編小説集』（平凡社ライブラリー）を読む

なお、上記例会における報告と討議の主な内容は、毎回発行の「文芸研究会ニュース」に掲載している。また、月刊誌『人権と部落問題』に掲載の「文芸の散歩道」は本研究会が担当しており、1999年10月以来、210回を数えている。

【部落問題研究者全国集会】※会場は同志社女子大学

第55回部落問題研究者全国集会・「思想・文化」分科会では、テーマ「解決過程の中で作品を読み解く」に基づき、次の報告と討議を行った。

10月29日 秦 重雄：上原善広の『路地』の迷路

成澤榮壽：ラフカディオ・ハーンの世界に見る部落問題

2. 部落問題の解決過程に関する研究成果の普及

部落問題研究所創立60周年を記念して「部落問題解決過程の研究」の共同研究を実施した。研究成果は、『部落問題解決過程の研究』第1巻（歴史篇）／『部落問題解決過程の研究』第2巻（教育・思想文化篇）／『部落問題解決過程の研究』第3巻（現状分析・理論篇、資料篇Ⅰ）／『部落問題解決過程の研究』第4巻（資料篇Ⅱ）に続いて、『部落問題解決過程の研究』第5巻（年表篇）を刊行（2016年度）して、全巻完結した。

全5巻とともに、共同研究の成果を反映させた、部落問題研究所編『ここまでの部落問題の解決』（2017年刊行）の普及に努めてきた。

3. 部落問題研究者全国集会などの開催

2017年10月28日（土）～10月29日（日）に、同志社女子大学（京都市）で、104名の参加を得て開催した。

全体集会（1日目）では、「日本社会の民主的発展と部落問題研究—成果と方法の継承・発展をめざして」をテーマに、次の2名の報告があった。

猪飼隆明「近代日本の社会問題の歴史研究—部落問題、ハンセン病問題」

石倉康次「社会調査から見た部落問題の解決過程」

2日目は、5分科会（歴史Ⅰ・Ⅱ、現状分析・理論、教育、思想・文化）ごとに報告・討論をおこなった。

4 図書資料の蒐集・保存・整備及び資料紹介に関する事業

(1) 部落問題関係資料の収集

歴史、現状、運動、行政、人権、教育、文芸等に関する資料の収集を進めた。

(2) 資料室の整備・充実

第1資料室（開架式）の書架の整理、目録カードの入力は完了した。第2資料室（閉架式）開設の準備として、未整理の寄贈図書について整理し、目録を作成した。

(3) 研究図書・資料の収集

斎藤直子『結婚差別の社会学』（勁草書房）などの図書を購入した。また、多数の図書・資料の提供を受けた。

(4) 関係図書の紹介

『人権と部落問題』『部落問題研究』『会報』において、関係資料の紹介をおこなった。

5. 機関誌・研究紀要・学術図書等の刊行

(1) 『人権と部落問題』（月刊）を毎月2300部、年12回を編集・刊行した。

特集のテーマは、次の通りである。

「学習指導要領の徹底批判」（4月号）

「憲法とくらし」（5月号）

「『部落差別解消推進法』に抗して」（6月号）

「戦後部落問題の分岐点（4）一和歌山」（7月号）

「『平和への権利』国連宣言」（8月号）

「障害者と人権」（9月号）

「放課後の子どもたち」（10月号）

「老いて生きる」（11月号）

「暴走する政治に抗して」（12月号）

「戦後部落問題の分岐点（5）一高知」（1月号）

「アイヌ政策と民族の権利」（2月号）

「『部落差別解消推進法』の実効化阻止へ」（3月号）

連載「世界のくらしと文化」のテーマは、次の通りである。

「韓国① 画家・李仲燮—幸せな家族図、いくつもの画家の姿」（4月号）

「韓国② 画家・李仁星—『郷土』を描くこと、『郷土らしさ』を描くこと」
(5月号)

「韓国③ 画家・朴壽根—なつかしい風景、朝鮮戦争とアメリカ」（6月号）

「韓国④ 画家・金煥基—変わらずに、変わり続ける 描き続けた原風景」
(7月号)

「イタリア① アッシジ刺繍—女性が継承する針仕事」（8月号）

「イタリア② 変化し続ける『伝統』」（9月号）

「イタリア③ ウンブリア州のテキスタイル文化」（10月号）

- 「イタリア④ 修道院と刺繍文化」 (11月号)
- 「モンゴル・カザフスタン① モンゴル国の少数民族—カザフ人」 (12月号)
- 「モンゴル・カザフスタン② カザフ人の劇場で響く日本の『ふるさと』」
(1月号)
- 「モンゴル・カザフスタン③ カザフ音楽を演奏する『モンゴル人』」
(2月号)
- 「モンゴル・カザフスタン④ カザフスタンへの移住と音楽」 (3月号)

(2) 紀要『部落問題研究』の221輯、222輯、223輯、224輯を各500部刊行した。主な論考は、次の通りである。

- 221輯 第54回部落問題研究者全国集会報告
- 222輯 八木 滋「近世大坂・西道頓堀南側の開発過程」
鈴木 忠義「社会福祉政策における『居場所』概念の検討」
小原 亨「非人・乞食の位相」
秦 重雄「書誌的批判的考察：上原善広編『路地 被差別部落をめぐる文学』」
- 223輯 藤本清二郎「機内譜代藩『長吏』体制の展開と終焉—尼崎藩の場合」
塚田 孝「近世大坂の役木戸」
竹永 三男「民権派ジャーナリスト・高橋基一の活動とその立憲主義論の基礎的検討」
秦 重雄「続・書誌的批判的考察：塩見鮮一郎編『被差別小説傑作集』
『被差別文学全集』」
- 224輯 邊 柱承「朝鮮後期の流民研究」
邊 柱承「朝鮮後期の流民研究(抄訳)」／翻訳 金津日出美・金泰勲
鬼嶋 淳「戦後日本の地域医療・福祉をめぐる運動—入間医療生活協同組合の模索」
渡邊久仁太「貝塚寺内町非人番について」

(3) 関係図書の編集と刊行

1. 部落問題研究所編『ここまで来た部落問題の解決—「部落差別解消推進法」は何が問題か』(2017年9月)
2. 永田 喜久『子どもの未来のために—平和への願いを込めて』(2017年10月)
3. 三田 智子『近世身分社会における村落構造—泉州南王子村を中心に』(2018年3月)
6. 法人の機能を活用した各種サービス

(1) 『東方の門』(島崎藤村)の輪読会の開催

『夜明け前』(島崎藤村)輪読会に続いて、2017年9月3日より、原則として毎月1回『東方の門』輪読会を開催してきた。2018年4月で最終回となった。各回10名前後の参加者があった。

(2) 研究会の開催

歴史、現代部落問題・人権論、教育、文芸の各分野ごとに研究会を開催した（詳細は、各種の調査研究の項を参照のこと）。

- 5月 7日 歴史研究会（科研費）
- 5月21日 教育研究会
- 6月11日 歴史研究会／文芸研究会
- 7月 9日 教育研究会
- 8月25日 歴史研究会
- 8月27日 文芸研究会
- 9月 3日 歴史研究会（科研費）
- 9月10日 教育研究会
- 9月16日 歴史研究会（科研費）
- 9月25日 歴史研究会
- 10月 1日 歴史研究会
- 10月22日 歴史研究会
- 10月28日～29日 第55回部落問題研究者全国集会全体会（同志社女子大学）
- 12月10日 教育研究会
- 12月16日 歴史研究会（科研費）
- 1月 8日 歴史研究会（科研費）
- 1月14日 歴史研究会
- 1月21日 文芸研究会
- 2月10日 歴史研究会（科研費）
- 2月25日 教育研究会
- 3月16日 現状分析・理論研究会
- 3月17日 科研費「行き倒れに関する国際的比較地域史研究」報告会（機関紙会館）
- 3月30日 歴史研究会

(3) 講師の斡旋

部落問題・人権問題の講師派遣要請に対応してきた。

(4) 関係資料の閲覧・貸し出し

部落問題・人権問題に対する資料の貸し出し要請に対応してきた。

(5) 相談活動

部落問題・人権問題に対する各種相談に対応してきた。

7. 目的を同じくする各種機関・団体との連絡・協力

全国各地で活動している研究機関・研究会などと連絡を密にして、研究・調査・学習な

どの事業について、協力関係を発展させてきた。

8. 役員会等の開催

(1) 臨時総会の開催

2018年3月21日（水／祝）に臨時総会を開催して、次の議案を審議し、議決した。

- ① 2018年度事業計画、2018年度収支予算
- ② 定款の改定

(2) 役員会

1) 理事会を11回開催して、研究所の事業運営について審議し、執行した。

第1回 議事 ① 理事長・常務理事の選出

(5月14日)

第2回 議事 ① 『人権と部落問題』誌の発刊について

(6月12日)

- ② 財政の改善に向けて
- ③ 所蔵資料の整理について

第3回 議事 ① 市民講座の開催について

(7月23日)

- ② 「部落差別解消推進法」制定後の各地の動静について
- ③ 所蔵資料の整理について

第4回 議事 ① 会員の動向

(9月15日)

- ② 財政状況について
- ③ 第55回部落問題研究者全国集会の経費について
- ④ 書籍の普及について
- ⑤ 寄付募集のとりくみについて

第5回 議事 ① 内閣府公益認定等委員会による実地調査の「講評」に対する対応について協議し、決定または保留した。

(12月11日)

- ② 財政健全化について
- ③ 2017年度臨時総会の開催について

第6回 議事 ① 新たな顧問先の選定について

(2月3日)

- ② 内閣府による実地調査への対応について
- ③ 臨時総会に向けて
- ④ 定時総会について
- ⑤ 業務報告

第7回 議事 ① 定款の改定について

(3月5日)

- ② 諸規定の改定について
- ③ 2017年度臨時総会議案について
- ④ 2018年度定時総会の開催について
- ⑤ 将来検討委員会の開催について
- ⑥ 業務報告

- 第8回 議事 ①2017年度臨時総会議案について
(3月20日) ②2017年度臨時総会の運営について
③2018年度定時総会の開催について
- 第9回 議事 ①2017年度臨時総会議案について
(4月8日) ②左京消防署・京都市都市計画建築安全推進課の立ち入り検査への対応
③2018年度定時総会について
- 第10回 議事 ①2018年度定時総会議案について
(4月28日) ②理事長・常務理事の選任について
③左京消防署・京都市都市計画建築安全推進課の立ち入り検査への対応
④学術図書の刊行について
- 第11回 議事 ①2018年度定時総会議案について
(5月13日)

2) 監事(4名)は、4月26日(木)に、2018年度定時総会(5月13日)に附議する業務執行状況、財産状況について監査し、これを承認した。

(3) 委員会

2006年度より、二つの委員会体制(編集委員会・研究委員会)をとっている。2017年度は、編集委員会を12回、研究委員会を6回開催し、所管の事項を審議した。

(4) 所内会議

役職員全員による所内会議を5回開催し、部落問題研究所の運営について適宜協議した。

(5) 将来検討委員会

2016年7月18日に発足した第二次将来検討委員会は、2016年度4回開催したが、2017年度は開催しなかった。2017年度決算をふまえて、定時総会後に開催する予定である。

(6) 会員の異動状況

2017年度末の会員数は、388名で、その内訳は、普通会員368名(内維持会費を支払う普通会員48名)、賛助会員19名(団体を含む)、特別会員1名であった(この内、有権者は368名)。

2017年度の入会者は、普通会員11名、賛助会員0名、退会者は、普通会員11名、賛助会員1名、個人(特)1名である。